

高知県感染症発生動向調査（週報）

2016年 第49週（12月5日～12月11日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第48週の0.48から第49週では0.92と増加しました。高知市、幡多、中央西、中央東で増加し、須崎では前週に引き続き、高知市、幡多でも今シーズン初めて、流行開始の目安とされている1.00を上回るなど、報告数が増加しています。迅速検査ではインフルエンザA型が100%となっています。

全国でも定点医療機関当たりの報告数が第47週の1.79から第48週では2.49と引き続き増加傾向にあるうえ、過去5年間の同時期と比較しても報告数が多い状態であることから注意が必要です。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況をみると、直近の5週間（2016年第44～48週）ではAH3亜型の検出割合が最も多く88.2%、次いでAH1pdm0が9.2%、B型2.4%の順でした。

県内の病原体検出情報では高知市と須崎から提出された検体からInfluenza virus A H3 NTが6例検出されています。

これからの時期は空気も乾燥し、インフルエンザウイルスが活動しやすい時期となります。

インフルエンザの感染力は大変強く、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が拡大することから、集団生活の場では特に注意が必要です。

予防対策としては手洗い、咳エチケットのほか予防接種がありますので、かかりつけ医療機関にお尋ねください。

学校等における集団発生

※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多
休校	第49週	0	0	0	0	0	0
	累計	0	0	0	0	0	0
学年閉鎖	第49週	0	0	0	0	0	0
	累計	0	1	0	0	0	0
学級閉鎖	第49週	0	0	0	0	0	0
	累計	0	0	0	0	0	0

インフルエンザ予防接種は、お早めに！

インフルエンザワクチンを接種してから抗体ができて予防効果が発現するためには、約2週間かかり、約5ヶ月程度持続すると言われていたことから、12月頃までに接種を完了することが望めます。

予防接種には、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症を一定程度抑える効果や重症化を予防する効果が認められています。

インフルエンザの飛沫感染対策【咳エチケット】

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の咳エチケットに心がけてください。

- （1）普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- （2）咳やくしゃみが出る時はできるだけマスクをすること。
- （3）手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。 等

■ 飛沫感染対策ではマスクは重要です。特に感染者がマスクをすることが、感染の拡散を抑える効果が高いと言われています。

●厚生労働省 「平成28年度今冬のインフルエンザ総合対策について」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>

●厚生労働省 「平成28年度インフルエンザQ&A」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第 48 週の 5.73 から第 49 週では 6.77 と横ばいです。県内全域から報告があり、須崎、高知市、安芸で増加し、須崎では注意報値を超えています。定点医療機関からのホット情報ではノロウイルス 15 例、ロタウイルス 2 例、サルモネラ 2 例、カンピロバクター 1 例の報告があり、感染症情報収集システム※でも 22 例の報告があるなど報告数の多い状態であることから、注意が必要です。

病原体検出情報では臨床診断名が感染性胃腸炎として搬入された検体から Norovirus GII NT と Sapovirus genogroup unknown、Astrovirus NT が報告されています。

感染性胃腸炎は、病原体により異なりますが、通常 1～3 日の潜伏期間の後発症し、吐き気、おう吐、下痢、発熱、腹痛を主症状とする細菌あるいはウイルスなどによる感染症です。ウイルスを原因とする感染性胃腸炎胃腸炎には特別な治療法は無く、治療は症状に応じた対症療法となります。

乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状を生じることがありますので早めに医療機関を受診することが大切です。

例年、秋から冬にかけてノロウイルス、ロタウイルスなどのウイルス感染による感染性胃腸炎の報告数が増加します。特にノロウイルスを原因とする場合、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあるため注意が必要です。

予防対策のため、帰宅時や調理前・食事前、トイレの後に石けんでよく手を洗いましょう。また、感染した人の便やおう吐物には、直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用法を確認したうえで使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処分しましょう。）調理をする場合は、十分加熱しましょう。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関する Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第 48 週の 1.67 から第 49 週では 2.07 と増加しています。須崎、中央西、中央東、安芸、幡多で増加し、須崎では注意報値を超えています。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは A 群レンサ球菌による上気道の感染症です。レンサ球菌は菌の侵入部位や組織によって多彩な臨床症状を引き起こします。

2～5 日の潜伏期間の後、突然 38℃以上の発熱、咽頭発赤、莓状の舌などの症状が現れます。しばしばおう吐を伴います。熱は 3～5 日以内に下がり、1 週間以内に症状は改善します。

まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱（しょうこうねつ）」に移行することがあります。合併症には肺炎、髄膜炎、敗血症、リウマチ熱、急性糸球体腎炎などがあります。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる飛まつ感染、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染が主な感染経路です。

乳幼児では咽頭炎、年長児や成人特に妊婦では扁桃炎が現れ重症化することもあるため、うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○百日咳に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第 48 週の 0.00 から第 49 週では 0.07 です。高知市から報告があり、注意報値を超えています。

百日咳は、百日咳菌による感染症です。患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌によって感染します。通常 7～10 日間程度の潜伏期を経て、普通のかぜ症状で始まり、次第に咳が多くなり程度も激しくなる事と、痰が出る事が特徴です。その後、激しい咳は 2～3 週間かけて徐々に治まりますが、時折、発作性の咳がみられます。

百日咳は、感染力が強く、咳の開始から約 3 週間は菌の排出があるため、注意が必要です。

特に生後 6 ヶ月未満の乳児では無呼吸発作等、重篤になる場合もあるので、予防接種をしていない新生児、乳児がいる場合は特に感染に対する注意が必要です。

予防対策は予防接種、うがい、手洗い、咳エチケットです。

感染予防のためにワクチン接種をお勧めします。ワクチンは生後 3 ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

基幹定点当たりの報告数は第48週の1.13から第49週では0.88と減少していますが、中央東、高知市、幡多から報告があり、中央東では増加しています。定点医療機関からのホット情報で25例、感染症情報収集システム※では28例の報告があるなど、引き続き報告数の多い状態が続いていることから、注意が必要です。

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマによって起こる呼吸器感染症で、幼児期から学童期によく見られます。2～3週間と比較的長い潜伏期間を経てまず発熱、全身倦怠感、頭痛などの初期症状が現れます。その後、頑固な咳嗽がみられ、この咳は解熱後も3～4週間続きます。重症化すると中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を生じることがあります。

感染経路は患者の咳のしぶきを吸いこんだり、患者と身近で接触したりすることにより感染すると言われています。保育園や幼稚園、学校、あるいは家庭内等での伝播がみられます。

予防対策としては、手洗いと咳エチケットです。

※ 感染症情報収集システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

つつが虫病の報告が1例ありました。

日本紅斑熱やSFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが、つつが虫病はツツガムシというわずか0.3mmほどのダニの幼虫が媒介する感染症です。ツツガムシのふ化の時期（10から12月）に感染のリスクが高まりやすいです。

すべての、ダニやツツガムシが病原体を持っているわけではありませんが、これらのダニに咬まれないようにすることが感染の予防になりますので引き続き、注意が必要です。予防するためのワクチン等はありません。

マダニやツツガムシは野外に生息しています。野山や畑、草むらなどに出かけるときは十分注意しましょう。長袖・長ズボンを着用し、シャツの裾はズボンの中に入れ、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる等、肌の露出を少なくし、ダニ用の忌避剤を使用する等して、ダニに咬まれないようにしましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～2週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

●高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

●高知県衛生研究所 マダニによる感染症の注意喚起パンフレットを作成しました。

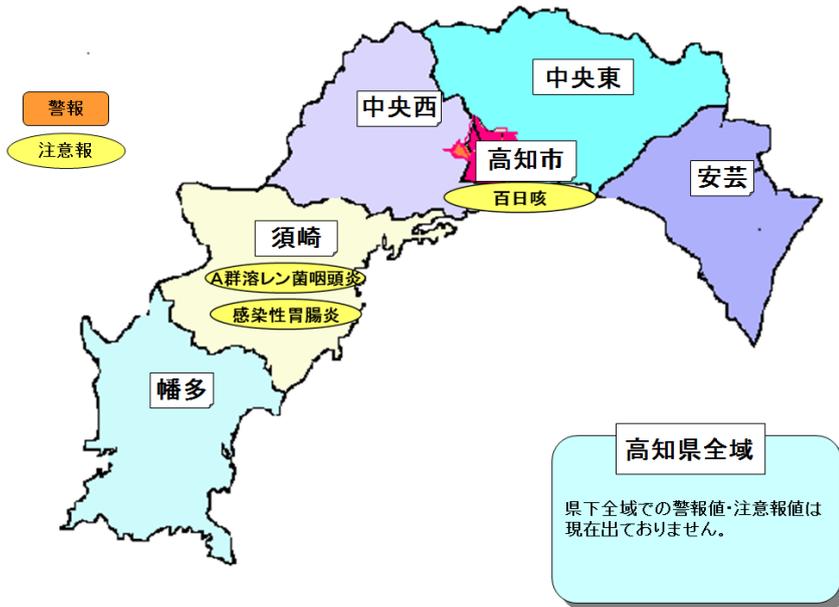
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2016061300063.html>

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ：急増 ：増加 ：横ばい ：減少 ：急減
49週（12月5日～12月11日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎		6.77	須崎、高知市、安芸で増加し、須崎では注意報値を超えています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.07	須崎、中央西、中央東、安芸、幡多で増加し、須崎では注意報値を超えています。
RSウイルス感染症		1.40	高知市、安芸、中央東、中央西で増加しています。
水痘		0.97	中央東で増加しています。
インフルエンザ		0.92	高知市、幡多、中央西、中央東で増加しています。

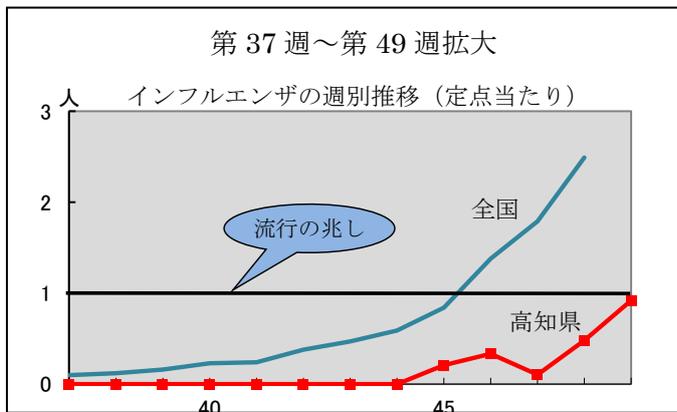
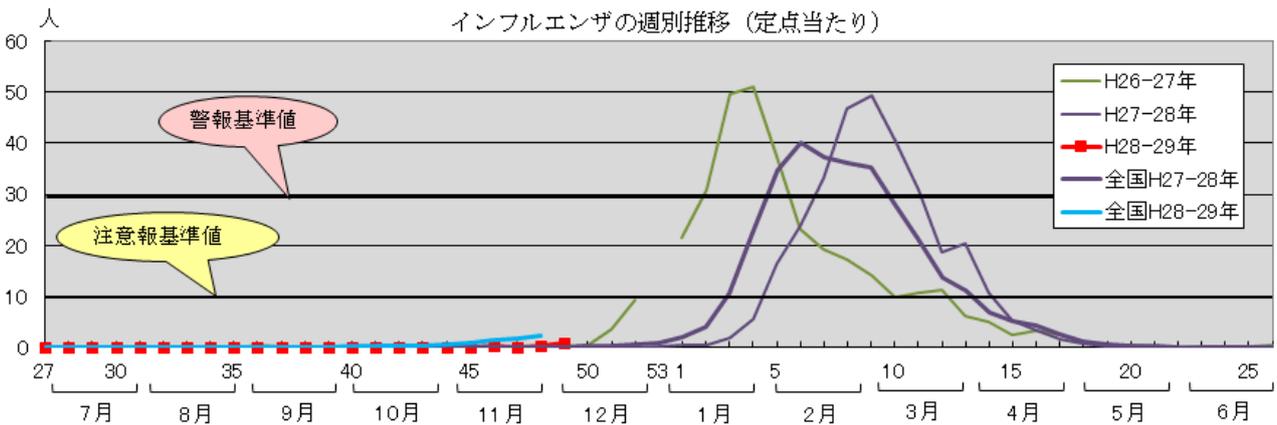
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

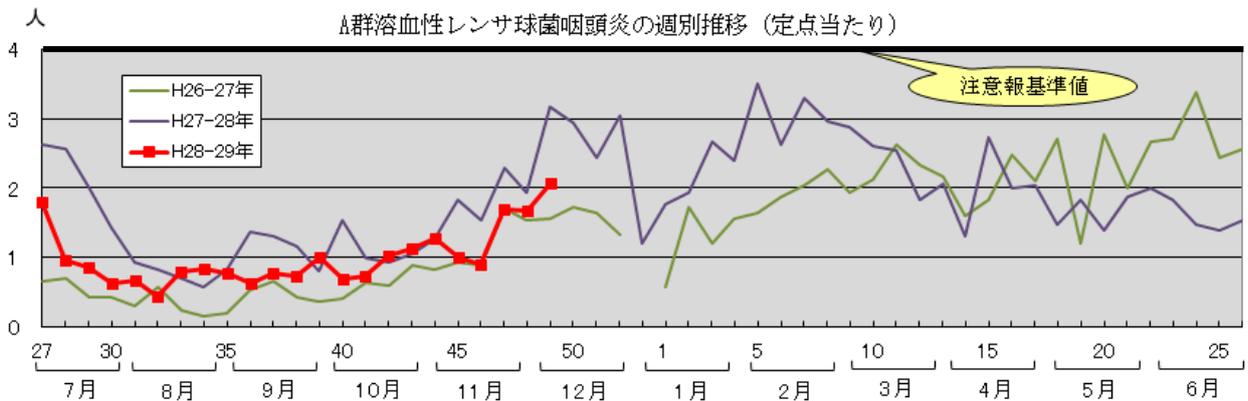
○インフルエンザ 第49週：0.92（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり0.92(前週0.48)と増加しています。高知市1.31(前週0.63)、幡多1.00(前週：0.25)、中央西0.80(前週：0.20)、中央東0.64(前週：0.00)で増加しています。



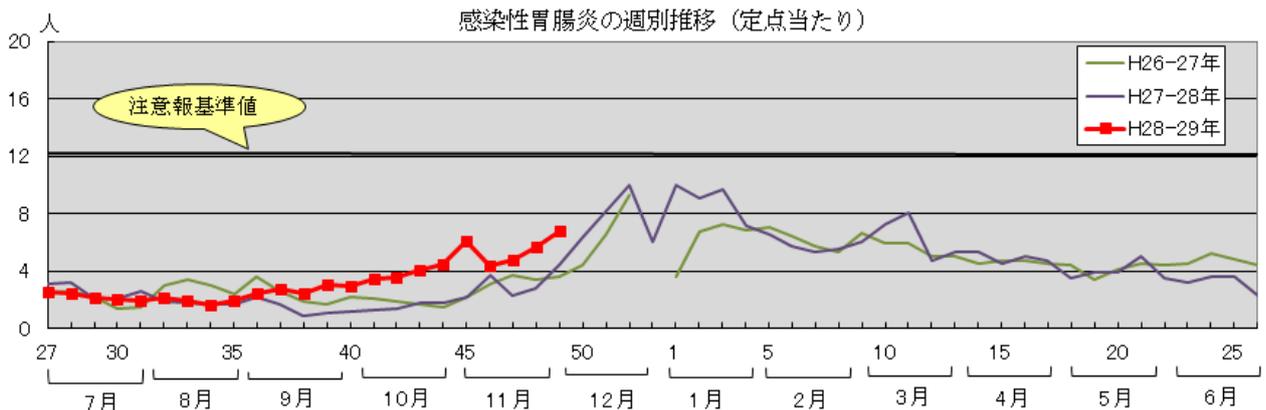
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第49週：2.07 (注意報値：4.00 警報値：8.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり2.07(前週：1.67)と増加し、須崎5.00(前週：3.00)、中央西3.00(前週：2.33)、中央東1.14(前週：0.86)、安芸1.00(前週：0.00)、幡多0.80(前週：0.40)で増加し、須崎では注意報値を超えています。



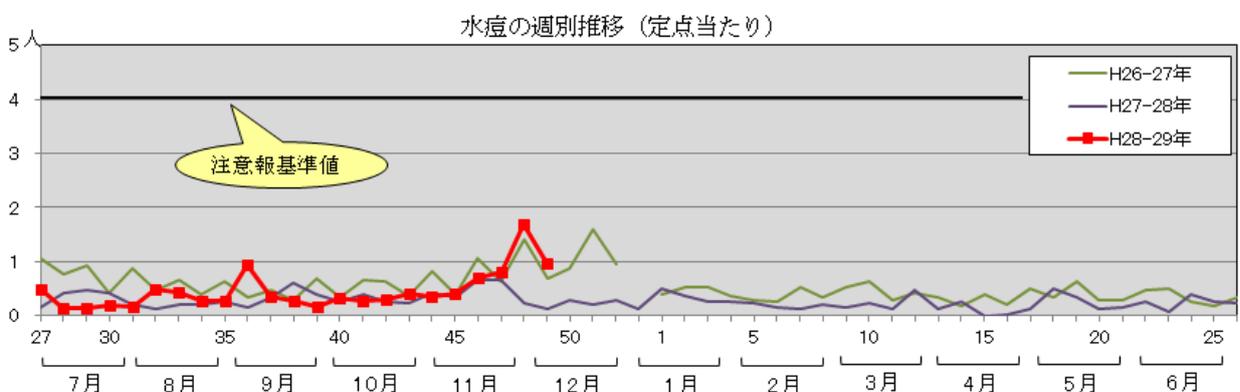
○感染性胃腸炎 第49週：6.77 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり6.77(前週：5.73)と横ばいですが、須崎13.50(前週：5.50)、高知市8.36(前週：5.09)、安芸2.50(前週：1.00)で増加し、須崎では注意報値を超えています。



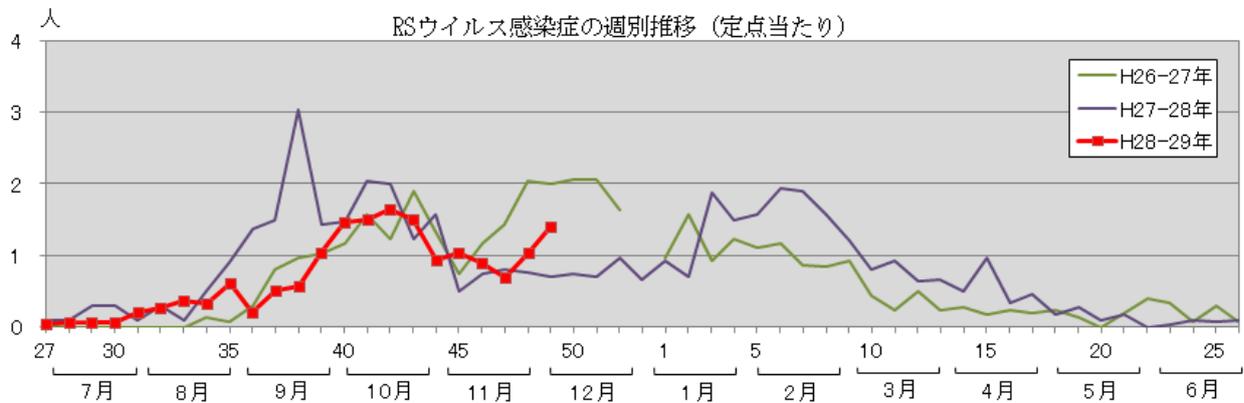
○水痘 第49週：0.97 (注意報値：4.00 警報値：7.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり0.97(前週：1.70)と減少していますが、中央東1.43(前週：1.29)で増加しています。



○RSウイルス感染症 第49週： 1.40 (注意報値：－ 警報値：－)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.40 (前週：1.03) と増加しています。高知市 1.73 (前週：1.00)、安芸 1.50 (前週：0.00)、中央東 0.43 (前週：0.29)、中央西 0.33 (前週：0.00) で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。

そのため、H25-H26年とH26-H27年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
49	感染性胃腸炎	11ヶ月	男	幡多	Astrovirus NT
					Norovirus GII NT
49	インフルエンザ	12	男	高知市	Influenza virus A H3 NT
49	インフルエンザ	9	男	高知市	Influenza virus A H3 NT
49	インフルエンザ	66	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
49	インフルエンザ	13	男	須崎	Influenza virus A H3 NT
49	インフルエンザ	4	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
49	インフルエンザ	3	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
49	感染性胃腸炎	8	女	須崎	Sapovirus genogroup unknown
49	感染性胃腸炎	3	男	須崎	Sapovirus genogroup unknown

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
48	-	6	男	幡多	human parvovirus B19

★全数把握感染症

第49週

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	118	70歳代男	高知市
4類	つつが虫病	1	4	80歳代女	高知市

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	あけぼのクリニック	マイコプラズマ感染症2例（8歳、11歳）
	いちはら内科小児科	カンピロバクター(+)1例（11歳女）
	おひさまこどもクリニック	水痘8例(予防接種未5例、1回済3例)
	高知大学医学部附属病院小児科	(病棟) マイコプラズマ1例（7歳女：腭炎合併） (外来) マイコプラズマ1例（5歳女）
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス感染症3例（3歳、5歳2人：出血性膀胱炎1名）
		マイコプラズマ肺炎9例（3歳3人、4歳、6歳、7歳、8歳2人、13歳）
		ノロウイルス腸炎1例（1歳）
		百日咳2例（2歳女、38歳女：母娘、共にPT-IgG160以上）
	高知医療センター小児科	RSウイルス感染症2例（1ヶ月女、6ヶ月男）
		アデノウイルス1例（5歳女）
		A群溶血性レンサ球菌1例（7歳男）
		インフルエンザウイルス検出なし
	国立病院機構高知病院小児科	感染性胃腸炎(ロタウイルス)9ヶ月女児
	三愛病院小児科	マイコプラズマ肺炎1例（4歳女）
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザ3例
		溶連菌感染症12例
		RSウイルス感染症1例（1歳男）
		流行性耳下腺炎1例（5歳女：ワクチン未接種）
細木病院小児科	ノロ8例（7ヶ月男、9ヶ月男、11ヶ月女、1歳男3人女2人）	
	ロタ1例（1歳男）	
	サルモネラ2例（3歳女、4歳女）	
町田病院	流行性角結膜炎（アデノウイルスなし）	
中央西	石黒小児科	アデノウイルス感染症1例（8歳女）
		水痘ワクチン1回済み（1歳女、5歳男、6歳女）
		マイコプラズマ肺炎1例（10歳男）
	くぼたこどもクリニック	マイコプラズマ感染症2例（4歳女、9歳男）
日高クリニック	マイコプラズマ肺炎4例（8歳女、9歳男、11歳男女）	
	アデノウイルス扁桃炎5例（2歳女、3歳男2人女、9歳男）	
須崎	もりはた小児科	滲出性扁桃炎(アデノ) 3例(1歳、2歳、6歳)
		感染性胃腸炎 ノロ陽性 6例
		マイコプラズマ肺炎 2例（5歳、11歳）
幡多	さたけ小児科	マイコプラズマ2例（2歳男、8歳男）

★全国情報

第47号（11月21日～11月27日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核240例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症36例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎2例、ジカウイルス感染症2例、つつが虫病34例、デング熱3例、マラリア1例、レジオネラ症22例

5類感染症：アメーバ赤痢12例、ウイルス性肝炎1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症14例
急性脳炎5例、クリプトスポリジウム症1例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症6例、後天性免疫不全症候群10例、ジアルジア症3例、
侵襲性インフルエンザ菌感染症7例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、
侵襲性肺炎球菌感染症43例、水痘（入院例に限る）2例、梅毒57例、破傷風1例、
バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん2例、麻しん2例、
薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

報告遅れ：E型肝炎1例、エキノкокクス症1例、つつが虫病6例、日本脳炎1例、レジオネラ症3例、
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症20例、急性脳炎4例、水痘（入院例に限る）2例、
梅毒29例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第49週 平成28年12月5日(月)～平成28年12月11日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第49週							計	前週	全国(48週)	高知県(49週末累計) H28/1/4～H28/12/11	全国(48週末累計) H28/1/4～H28/12/4
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
インフルエンザ	インフルエンザ			7	21	4	4	8	44 (0.92)	23 (0.48)	12,334 (2.49)	14,927 (310.98)	1,627,056 (329.36)	
小児科	咽頭結膜熱				7				7 (0.23)	21 (0.70)	1,358 (0.43)	685 (22.83)	61,626 (19.53)	
	八群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	8	29	9	10	4	62 (2.07)	50 (1.67)	7,628 (2.41)	2,371 (79.03)	338,951 (107.43)	
	感染性胃腸炎		5	37	92	15	27	27	203 (6.77)	172 (5.73)	54,876 (17.37)	6,479 (215.97)	903,687 (286.43)	
	水痘			10	10	5		4	29 (0.97)	51 (1.70)	1,967 (0.62)	499 (16.63)	57,770 (18.31)	
	手足口病				2				2 (0.07)	5 (0.17)	1,918 (0.61)	350 (11.67)	64,143 (20.33)	
	伝染性紅斑				4			2	6 (0.20)	14 (0.47)	401 (0.13)	343 (11.43)	49,935 (15.83)	
	突発性発疹				3	1	1	2	7 (0.23)	10 (0.33)	1,418 (0.45)	500 (16.67)	71,729 (22.74)	
	百日咳				2				2 (0.07)	()	38 (0.01)	119 (3.97)	2,835 (0.90)	
	ヘルパンギーナ		1	1	1			1	4 (0.13)	1 (0.03)	388 (0.12)	787 (26.23)	128,398 (40.70)	
	流行性耳下腺炎			3	4	4	2	2	15 (0.50)	19 (0.63)	3,331 (1.05)	918 (30.60)	147,804 (46.85)	
RSウイルス感染症		3	3	19	1	5	11	42 (1.40)	31 (1.03)	3,054 (0.97)	1,075 (35.83)	95,044 (30.12)		
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	5 (0.01)	()	368 (0.53)	
	流行性角結膜炎			1					1 (0.33)	1 (0.33)	496 (0.72)	21 (7.00)	24,285 (35.09)	
基幹	細菌性髄膜炎								()	()	6 (0.01)	10 (1.25)	466 (0.98)	
	無菌性髄膜炎								()	()	25 (0.05)	34 (4.25)	1,302 (2.75)	
	マイコプラズマ肺炎		1	5			1	7 (0.88)	9 (1.13)	536 (1.13)	312 (39.00)	17,798 (37.55)		
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()	4 (0.01)	30 (3.75)	328 (0.69)		
	感染性胃腸炎			2				2 (0.25)	()	8 (0.02)	241 (30.13)	5,142 (10.85)		
計 (小児科定点当たり人数)		11 (5.50)	70 (9.50)	202 (17.03)	39 (12.46)	49 (23.50)	62 (11.60)	433 (13.56)			89,791	29,701 (781.84)	3,598,667	
前週 (小児科定点当たり人数)		3 (1.50)	88 (12.59)	181 (15.44)	41 (13.53)	34 (14.50)	60 (11.45)		407 (12.94)					

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関)定点当たり人数

定点当たり

第49週

定点名	疾病名	保健所	第49週							計	前週	全国(48週)	高知県(49週末累計) H28/1/4～H28/12/11	全国(48週末累計) H28/1/4～H28/12/4
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
インフルエンザ	インフルエンザ			0.64	1.31	0.80	1.00	1.00	0.92	0.48	2.49	310.98	329.36	
小児科	咽頭結膜熱				0.64				0.23	0.70	0.43	22.83	19.53	
	八群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.00	1.14	2.64	3.00	5.00	0.80	2.07	1.67	2.41	79.03	107.43	
	感染性胃腸炎		2.50	5.29	8.36	5.00	13.50	5.40	6.77	5.73	17.37	215.97	286.43	
	水痘			1.43	0.91	1.67		0.80	0.97	1.70	0.62	16.63	18.31	
	手足口病				0.18				0.07	0.17	0.61	11.67	20.33	
	伝染性紅斑				0.36			0.40	0.20	0.47	0.13	11.43	15.83	
	突発性発疹				0.27	0.33	0.50	0.40	0.23	0.33	0.45	16.67	22.74	
	百日咳				0.18				0.07	()	0.01	3.97	0.90	
	ヘルパンギーナ		0.50	0.14	0.09			0.20	0.13	0.03	0.12	26.23	40.70	
	流行性耳下腺炎			0.43	0.36	1.33	1.00	0.40	0.50	0.63	1.05	30.60	46.85	
RSウイルス感染症		1.50	0.43	1.73	0.33	2.50	2.20	1.40	1.03	0.97	35.83	30.12		
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	0.01	()	0.53	
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.33	0.72	7.00	35.09		
基幹	細菌性髄膜炎								()	()	0.01	1.25	0.98	
	無菌性髄膜炎								()	()	0.05	4.25	2.75	
	マイコプラズマ肺炎		1.00	1.00			1.00	0.88	1.13	1.13	39.00	37.55		
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()	0.01	3.75	0.69		
	感染性胃腸炎			0.40				0.25	()	0.02	30.13	10.85		
計 (小児科定点当たり人数)		5.50	9.50	17.03	12.46	23.50	11.60	13.56			781.84			
前週 (小児科定点当たり人数)		1.50	12.59	15.44	13.53	14.50	11.45		12.94					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）

TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869